

「Claude Fable 5」提供停止の全貌：米政府の介入とAI地政学の新局面

2026年6月：
電撃的な停止
までの5日間



なぜ停止されたのか？：背景にある3つの要因

セキュリティリスク：「ジェイルブレイク」の懸念
安全ガードレールを回避し、サイバー攻撃や脆弱性発見に悪用されるリスクが「国家安全保障上の脅威」と判断された。

Anthropic側の反論：脆弱性は「限定的」
指摘された手際はGPT-5.5等の他モデルでも可能であり、数千時間のテストを経て安全対策は過去最強だったと主張。

政治的背景：トランプ政権との根深い対立
Anthropicが自社AIの米軍・軍事利用を指摘したことで、政府から「サプライチェーンリスク」のブラックリストに指定されていた。

業界・世界への波及効果

3兆ドル規模のIPOレースへの打撃
6月1日にIPOを目論んでいたAnthropicにとって、主力製品の停止は投資家からの信頼と評価額に深刻な影響を見出す。

「AI主権」議論の再燃
米国への過度な技術依存の脆弱性が露呈し、各国で独自モデルの開発や中国のオープンソースモデルへの関心が高まっている。

デファクトのライセンス制度化
半導体だけでなく「ソフトウェア（モデル）自体」を増徴対象とした創制のない措置は、他社（OpenAI, Google等）のリリース躊躇にも最悪効果を与える。

日本への教訓と今後の展望

顕在化した「カントリーリスク」
米国政府の意内一つで、クラウド上の重要サービスが突如利用不可になるリスクが浮き彫りになった。

脱・米国製AI依存の動き
機密情報を扱う国内企業や政府機関において、国産LLMの開発・導入や、オンプレミス型AIの検討が加速すると予測される。